

# トラブルシューティング

このマニュアルでは、PowerQuest Drive Image Pro の使用時に発生する可能性のある問題を修復する方法について説明します。このマニュアルで取り上げる内容は、以下のとおりです。

**Drive Image Pro の起動に必要なコンベンショナルメモリを確保する**

**Windows NT サーバーを高速化する**

**SyQuest ドライバのロード不良を修復する**

**診断エラーを修復する**

**パーティションテーブルエラーを修復する**

**パーティションテーブルとウィルス**

**エラーメッセージと解決策**

## Drive Image Pro の起動に必要なコンベンショナルメモリを確保する

DOS の Drive Image Pro 実行ファイルを起動するには、コンピュータのアドレス領域の最初（下位）の 640KB 以内（コンベンショナルメモリ）に最低 400KB のメモリが必要です。コンベンショナルメモリが足りない場合は、次の方法で必要なメモリを確保してください。

### MEMMAKER を実行する

MEMMAKER は、DOS の起動時にロードされるデバイスドライバやプログラムの設定を変えずに、コンベンショナルメモリを節約するようにコンピュータを自動的に設定するプログラムです。できるだけ多くのアプリケーションをコンベンショナルメモリから上位のメモリに移動することによって、コンベンショナルメモリを確保します。MEMMAKER を実行するには、DOS プロンプトで「MEMMAKER」と入力します。以降は、画面に表示される指示に従って操作してください。

MEMMAKER は、DOS 6.0 より前のバージョンでのみ使用できます。Windows 95 では使用できません。

### F8 キーでプログラムのロードを中止する

MEMMAKER を実行しても十分なコンベンショナルメモリを確保できなかった場合は、コンピュータを起動した直後の DOS の起動中に F8 キーを押します。これで、メモリをさらに確保できます。F8 キーを押すと、ハードディスクドライブ上の CONFIG.SYS ファイルおよび AUTOEXEC.BAT ファイルからコマンドが 1 つずつ読み込まれ、各コマンドに対し、そのコマンドを実行するかどうかの確認を求められます。Drive Image Pro の実行に不要なデバイスドライバや TSR プログラムをロードするコマンドが表示されたら、「N」（いいえ）を入力してメモリへのロードを中止します。これで、コンベンショナルメモリを節約できます。

### オペレーティングシステムの起動ディスクを作成する

MEMMAKER と F8 キーを使っても十分なメモリを確保できなかった場合は、コンベンショナルメモリの消費量を最小限に抑える起動ディスクを作成します。

DOS の全バージョンに対応した起動ディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. 重要な情報が収められていない空のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブ (A:) に挿入します。
2. DOS プロンプトに続けて、「FORMAT drive: ¥S」と入力します。ここで、drive にはフロッピーディスクドライブのドライブレターを指定します。
3. Enter キーを押します。

ディスクが初期化され、オペレーティングシステムファイルがコピーされます。これで、このディスクからコンピュータを起動できるようになります。フロッピーディスクドライブに挿入したディスクからコンピュータを再起動すると、コンベンショナルメモリの消費量を最小限に抑えることができます。このディスクからコンピュータが正常に起動したら、このフロッピーディスクからでもハードディスクドライブからでも Drive Image Pro を実行させることができます。

ネットワークを介してイメージを作成または復元するには、ネットワークの起動ディスクが必要です。付録 A の「DOS 起動ディスクを作成する」を参照してください。

## CONFIG.SYS ファイルを起動ディスクに作成する

標準の起動ディスクを作成しても十分なメモリを確保できない場合は、起動ディスクをカスタマイズし、さらにコンベンショナルメモリを確保できるように変更します。具体的には、ディスクからコンピュータを起動したときに、DOS オペレーティングシステムの一部が上位メモリにロードされるようにします。起動ディスクをカスタマイズするには、ルートディレクトリ (C:¥) に CONFIG.SYS ファイルを作成します。ルートディレクトリに CONFIG.SYS ファイルを作成するには、次の手順に従います。

1. DOS プロンプトに続けて、「drive:」と入力します。ここで、drive にはフロッピーディスクドライブのドライブレターを指定します。Enter キーを押します。

フロッピーディスクドライブに移動したかどうかを確認してください。移動していれば、drive:¥> プロンプトが表示されています。

2. 「EDIT CONFIG.SYS」と入力し、Enter キーを押します。

DOS エディタが起動します。CONFIG.SYS ファイルがまだ作成されていないければ、画面には空のファイルが作成されます。

3. エディタで次の 3 行を入力します。

```
DEVICE=C:¥DOS¥HIMEM.SYS
```

```
DEVICE=EMM386.EXE
```

```
DOS=HIGH,UMB
```

**注意：** 行の順番を変えずに入力してください。Windows のユーザーの場合は、「DEVICE=C:¥WINDOWS¥HIMEM.SYS」と入力してください。

4. [ファイル] [上書き保存]をクリックして、CONFIG.SYS ファイルを保存します。
5. [ファイル] [終了]をクリックして、DOS エディタを終了します。

これで、カスタマイズした起動ディスクからコンピュータを再起動できます。DOS のロード時に DOS カーネルの一部が上位メモリにロードされ、コンベンショナルメモリを最大限に節約できます。

## オペレーティングシステム圧縮ファイルを削除する

DOS 6.22 のシステムに圧縮ドライブ ( DriveSpace、DoubleSpace、Stacker など ) が不在の場合は、オペレーティングシステム圧縮ファイルの DRVSPACE.BIN または DBLSPACE.BIN を起動ディスクから削除できます。このような DOS 6.22 の圧縮ファイルは、CONFIG.SYS ファイルまたは AUTOEXEC.BAT ファイルの内容に関係なくメモリにロードされます。したがって、これらの圧縮ファイルを削除すると、さらにコンベンショナルメモリを節約できます。これらの圧縮ファイルは非表示のシステムファイルなので、削除するには次の手順を実行する必要があります。

1. DOS プロンプトに続けて、「drive:」と入力します。ここで、drive にはフロッピーディスクドライブのドライブレターを指定します。
2. 「ATTRIB -R -H -S \*.BIN」と入力します。
3. 「DEL \*.BIN」と入力します。

## Windows NT サーバーを高速化する

Drive Image Pro を起動すると、Windows NT サーバーが極端に遅くなる場合があります。これは、Windows NT サーバーがイメージファイル全体をメモリにキャッシュしようとしているためです。ネットワーク上のクライアントがイメージを復元しようとする、Windows NT サーバーの RAM は、イメージファイルで一杯になります。サーバーは、残りのわずかな RAM で新しい要求を処理しようとするため、処理速度が低下します。

Microsoft は、この解決策として、Windows NT サーバーに RAM を追加するように提案しています。また、Drive Image Pro の実行ファイルを起動するときに、コマンドラインに /MFS=100000000 というオプションを追加することもできます。これにより、各イメージファイルのサイズを 100MB 程度に抑えることができます。この方法を使うと、次のファイルを読み込むときに前のファイルが閉じられるため、Windows NT はメモリキャッシュを再利用できるようになります。これで、イメージファイル全体が、メモリにキャッシュされることはなくなります。

この問題は、NetWare サーバーでは発生しません。

## SyQuest ドライバのロード不良を修復する

Drive Image Proを起動すると、バッチファイルによってIomegaドライバとSyQuestドライバがロードされます。SyQuest リムーバブルメディアドライブのロード時に、「リムーバブルドライブが見つかりません。この問題の解決方法については、Readmeを参照してください。ドライバがインストールされていません。」というメッセージが表示される場合があります。この場合は、付録 C の「SyQuest ドライバ」を参照してください。

使用している SyQuest ドライバが SCSI ドライブであり、ASPI8DOS、ASPI7DOS、ASPI4DOS、ASPI2DOS、または ASPIEDOS の ASPI マネージャに対応していないアダプタを使って接続されている場合は、LDSQSCSI.BAT ファイルを編集して、正しい ASPI マネージャに変更します。

## 診断エラーを修復する

Drive Image Pro は、イメージファイルの作成またはパーティションのコピーを実行する前にパーティションの状態を詳しく診断します。この診断は、CHKDSK、SCANDISK、AUTOCHK などのオペレーティングシステムのユーティリティを使って実行する診断と同じです。

診断エラーのメッセージが表示された場合は、まずハードディスクのバックアップを作成し、次にオペレーティングシステムのCHKDSKプログラムを問題の発生したパーティションで実行します。通常は、Drive Image Proと同じ問題が検出されるはずですが。

**注意：** MS-DOS 6.x または Windows 95 を使用している場合は、SCANDISK を実行してください。

**注意：** DOS の CHKDSK プログラムでは、拡張属性の問題は検出できません。

**注意：** Windows NTのCHKDSKを使う場合、最初は/Fスイッチは使用しないでください。

CHKDSK または SCANDISK が Drive Image Pro と同じ問題を検出しなかった場合は、(株) ネットジャパンにお問い合わせください。問い合わせ先は、付録 E に掲載されています。

CHKDSK または SCANDISK が Drive Image Pro と同じ問題を検出した場合は（これが通常の結果です） /F スwitchを指定して CHKDSK を実行し、問題を修復してください。

**注意：** DOS 6.x を使用している場合は SCANDISK、Windows NT を使用している場合は CHKDSK を実行します。

/F スイッチを指定して CHKDSK を実行したら、次に、/F スイッチを指定しないで再度 CHKDSK を実行し、パーティションに問題がなくなったことを確認します。OS/2 では、この手順を 2 回繰り返してから次に進んでください。

引き続きエラーが検出された場合は、パーティションを再フォーマットし、バックアップコピーからファイルを復元して問題を修復してください。

Drive Image Pro は、パーティションを復元した後にも診断処理を実行します。この診断が失敗した場合は、(株) ネットジャパンに問題を報告してください。問い合わせ先は付録 E に掲載されています。頻繁に発生する問題ではありませんが、データを損失している可能性もあります。通常は、軽度のファイルシステムエラーであり、CHKDSK /F でデータを損失することなく修復できます。重度のエラーの場合は、バックアップコピーからファイルを復元する必要があります。

## パーティションテーブルエラーを修復する

パーティションテーブルエラーを修復するには、エラーのないパーティションテーブルを新しく作成する必要があります。

この種のエラーは、データを維持したままで修復できる場合があります。次の手順を実行する前に、(株) ネットジャパンにお問い合わせください。

パーティションテーブルを作成するには、次の手順に従います。

1. ウィルスに感染していないかどうかを確認します。

7 ページの「パーティションテーブルとウィルス」を参照してください。

2. 問題のあるパーティションのバックアップを作成します。

3. そのパーティションを削除します。

DOS の旧バージョンでは、HPFS パーティションや非表示パーティションは削除できません。削除する必要がある場合は、最新バージョンの FDISK プログラムを使ってください。

OS/2 の FDISK プログラムでは、パーティションが破損していると判断され、変更できない場合があります。この場合は、DOS の最新バージョンの FDISK を使ってください。

4. パーティションを作成し直します。
5. パーティションの中身を復元します。

## パーティションテーブルとウイルス

あるオペレーティングシステムでパーティションを変更しても、その変更内容が別のオペレーティングシステムでは認識されない場合があります。この場合、MBR（マスタートラブルレコード）がウイルスに感染している可能性があります。

最新のウイルスを検出できるウイルス検出ユーティリティを実行してください。ウイルスが検出された場合は、データが失われている可能性があります。ウイルスが検出された場合は、次の手順に従ってください。

1. ウィルスを除去する前に、両方のオペレーティングシステムで ScanDisk または CHKDSK を実行し、パーティションの状態を診断します。
2. 問題が検出されなかったパーティションのバックアップを作成します。
3. すべてのオペレーティングシステムからファイルをバックアップした後、ウィルスを除去します。
4. オペレーティングシステムごとに ScanDisk または CHKDSK をもう一度実行します。
5. 問題が検出されたパーティションを削除して作成し直します。
6. オペレーティングシステムを再インストールします。
7. 必要に応じてバックアップファイルを復元します。

## エラーメッセージと解決策

エラーメッセージと解決策の一覧については、PowerQuest Knowledge Base ( [www.powerquest.com/support/er/er0000.html](http://www.powerquest.com/support/er/er0000.html) ) を参照してください。

### その他のエラー (3 ~ 38)

#### #3 メモリ不足です

DOS の Drive Image Pro 実行ファイルを起動するには、コンピュータのアドレス領域の最初 ( 下位 ) の 640KB 以内 ( コンベンショナルメモリ ) に最低 400KB、また、合計で 8MB のメモリが必要です。コンベンショナルメモリが足りない場合は、2 ページの「Drive Image Pro の起動に必要なコンベンショナルメモリを確保する」を参照してください。解決策が掲載されています。

#### #8 DOS のリアルモードメモリの割り当て / 開放ができませんでした

DOS の Drive Image 実行ファイルを起動するには、下位 1MB のコンピュータのアドレス領域で ( Drive Image は DOS エクステンダを使用 ) ある程度のメモリを Drive Image に割り当てする必要があります。ここに十分なメモリが確保されていないと、Drive Image はハードディスクドライブにアクセスできません。コンベンショナルメモリが足りない場合は、2 ページの「Drive Image Pro の起動に必要なコンベンショナルメモリを確保する」を参照してください。解決策が掲載されています。

#### #23 このバージョンのオペレーティングシステムに対応していません

Drive Image を起動できるオペレーティングシステムのバージョンは、「はじめに」の「システム要件」に記載されています。

#### #34 このベータ版または評価版は使用できません

( 株 ) ネットジャパンでは、Drive Image のベータ版と評価版をリリースする場合があります。これらは、製品版に比べると安定性に欠けます。そのため、ベータ版と評価版には有効期限が設定されています。あらかじめ指定された試用期間を過ぎると、ベータ版と評価版は機能しなくなります。



### #36 DPMI サーバーエラー

DOS の Drive Image 実行可能ファイルは、DOS エクステンダを使用しています。このエラーは、Drive Image が DOS エクステンダを経由して (DOS または BIOS を ) コールしたときに問題が発生したことを示します。DOS エクステンダと拡張メモリを使う他のプログラムが衝突している可能性があります。通常の起動シーケンスで、DOS が CONFIG.SYS または AUTOEXEC.BAT からロードしたプログラムの中に衝突しているものがあります。

このエラーは、DOS の起動中に F8 キーを押して解決できる場合があります。F8 キーを押すと DOS が起動し、CONFIG.SYS ファイルおよび AUTOEXEC.BAT ファイルのコマンドの読み込みが始まると、各コマンドに対し、そのコマンドを実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。DOS エクステンダと衝突している可能性のあるデバイスドライバや TSR プログラムをロードするコマンドが表示されたら、「N」(いいえ)を入力して、DOS がそのコマンドを実行してソフトウェアをメモリにロードしないようにしてください。1 つずつ確認して、エラーの発生しないプログラム構成を探してください。

### ディスクアクセスエラー (40 ~ 56)

40 ~ 56 番のエラーはディスクにアクセスできない場合に表示されます。ほとんどの場合、これらのエラーの原因はハードウェアの問題です。簡単な対処法で修復できる問題もありますが、ハードディスクドライブの交換が必要な場合もあります。Drive Image では、変更処理を実行する前にエラーが診断されるため、ハードディスクドライブを交換する必要のあるエラーが発生しても、ハードディスクドライブを交換する前にデータのバックアップを作成することができます。

### #49 書き込みに失敗しました

## #50 読み込みに失敗しました

Drive Imageを使ってハードディスクドライブの特定のセクタに書き込んだり、そこから読み込むことができません。このエラーの原因として、以下のことが考えられます。

- コンピュータからピープ音が鳴ったり、画面の中央に黒いボックスが表示されている場合は、ウイルス検出機能がコンピュータの BIOS でオンに設定されています。BIOS のウイルス検出機能やブートセクタの保護プログラムをオフにしてください。
- ウィルス検出プログラム( TSR プログラムまたは DLL プログラム )が稼働中です。Drive Image を使用する前にこのアプリケーションを終了してください。
- ハードディスクドライブに不良セクタがあります。通常、このエラーは古いハードディスクドライブでしか発生しません。SCANDISK を実行してハードディスクドライブをスキャンし、不良セクタの有無を確認してください。ハードディスクドライブに不良セクタがある場合は、ハードディスクの交換をお勧めします。
- PC-Tools でディスクミラーリングが設定されています。このオプションをオフに設定してください。
- キャッシュコントローラの設定が間違っています。

## パーティションテーブルエラー (100 ~ 199)

100 ~ 199 番は、パーティションテーブルエラーです。この種のエラーを修復するための一般的な情報については、6 ページの「パーティションテーブルエラーを修復する」を参照してください。

### #100 パーティションテーブルの不良です

MBR (マスターブートレコード) に登録できる拡張パーティションは 1 つだけです。また、拡張パーティションブートレコード (EPBR) に登録できる別の EPBR へのリンクは 1 つだけです。パーティションテーブルがこの制限を超えると、このエラーが発生します。Drive Image が変更処理を実行するたびにハードディスクドライブからのデータの復元率が減少するため、Drive Image がパーティションを認識しなくなります。この問題を修復するには、新たに正常なパーティションテーブルを作成する必要があります。7 ページの「パーティションテーブルとウイルス」を参照してください。

### #104 パーティションにセクタがありません

パーティションには、必ずセクタを指定します。セクタのないパーティションは、Drive Image を使用する前に削除してください。

#### **#105 パーティションが間違っただ境界上で始まっています**

ハードディスクのパーティションテーブルに間違っただ値が登録されています。FAT、NTFS、HPFS の各パーティションは、FDISK で使用される境界内で始まり、かつ、終わってなければなりません。そうでない場合は、ディスクが部分的に壊れる可能性があります。この状況で Drive Image が何らかの変更処理を実行すると、データを損失する可能性があるため、Drive Image がハードディスクドライブのパーティションを認識しなくなります。この問題の修復方法については、6 ページの「パーティションテーブルエラーを修復する」を参照してください。

#### **#106 パーティションがセクタ 1 から始まっています**

エラー #105 を参照してください。

#### **#107 パーティションがディスク領域を超えています**

1,024 以上のシリンダを持つハードディスクドライブで Drive Image を起動すると、このエラーが発生します。DOS 上では、BIOS の 1,024 シリンダ制限が Drive Image にも適用されます。そのため、この制限を超えたパーティションがあるハードディスクドライブでは、Drive Image を安全に使用することができません。

また、間違っただ物理的なハードディスクドライブの領域を超えてパーティションを拡張した場合もこのエラーが発生します。これは、ハードディスクドライブを別のコンピュータやコントローラで使用していたり、BIOS 設定を変更したときに起こる可能性があります。ハードディスクドライブの物理ジオメトリは、オペレーティングシステムがハードディスクドライブに割り当てた論理ジオメトリとは異なるので注意してください。

#### **#108 パーティションが最終シリンダで終わっていません**

エラー #105 を参照してください。

#### **#109 パーティションの末端がディスク領域を超えています**

エラー #107 を参照してください。

#### **#110 パーティションテーブルのセクタ数が一致しません**

ハードディスクドライブのパーティションテーブルに、ハードディスクドライブのセクタ数が 2 種類書き込まれています。DOS と他のオペレーティングシステムでハードディスクドライブを使用している場合、このエラーは深刻です。両方のオペレーティングシステムがそれぞれ別の記述を使うため、パーティションがほぼ満杯になった時点でデータを損失する可能性があります。このエラーを解決するには、6 ページの「パーティションテーブルエラーを修復する」を参照してください。

### **#111 論理パーティションの先頭が拡張パーティションの領域外にあります**

ハードディスクのパーティションテーブルに間違った値が登録されています。論理パーティションは、拡張パーティションの領域内に完全に収まっていなければなりません。このエラーを解決するには、6 ページの「パーティションテーブルエラーを修復する」を参照してください。

### **#112 論理パーティションの末端が拡張パーティションの領域外にあります**

エラー #111 を参照してください。

### **#113 パーティションが重複しています**

ハードディスクのパーティションテーブルに間違った値が登録されています。データパーティションが重複していると、一方への書き込みがもう一方のデータを破壊してしまう場合があります。

このエラーは、OS/2 の FDISK のバグによって発生する場合があります。拡張パーティションに空き領域があると、OS/2 の FDISK プログラムは、拡張パーティションに重なるように基本パーティションを作成してしまいます。そして、重複している基本パーティションの領域に論理パーティションが作成されます。

このとき、基本パーティションが拡張パーティションの後部に重なっていても、拡張パーティション内の論理パーティションに重なっていなければ、パーティションテーブルにパッチをあてることで問題を修復できます。ただし、修復作業は必ず専門知識のあるエンジニアが行ってください。間違ったパッチをあけると、ハードディスクドライブのデータがすべて破壊されることがあります。通常は、6 ページの「パーティションテーブルエラーを修復する」を参照して問題を修復してください。

### #116 パーティションテーブルの先頭と開始値が一致していません

ハードディスクドライブのパーティションテーブルに、パーティションの先頭セクタが 2 種類登録されています。このエラーは、オペレーティングシステムがパーティションテーブルを作成したときとは異なるハードディスクジオメトリを報告した場合に発生します。ハードディスクドライブのジオメトリが変更された原因として次のことが考えられます。

- 異なるオペレーティングシステム(たとえば DOS と OS/2 など)が異なるハードディスクジオメトリをレポートした。
- フロッピーディスクから起動したためにハードディスクドライブから起動したときとは異なるドライバがロードされた。
- オペレーティングシステムを更新した(たとえば、OS/2 2.x から OS/2 Warp へ)ために別のドライバが使用された。
- ハードディスクドライブやコントローラが交換された。
- BIOS が更新された。
- BIOS の LBA 設定が変更された。
- ハードディスクドライブにウイルスに感染したパーティションテーブルがある。

ほとんどの場合、6 ページの「パーティションテーブルエラーを修復する」を参照して問題を修復できます。ウイルスが原因の場合は、ウイルス検出プログラムを使ってパーティションテーブルからウイルスを除去してください。パーティションを作成した後にトラックあたりのヘッド数やセクタ数が変更されていると、データが失われる可能性があります。

### #120 論理ドライブのチェーンに互換性がありません

このエラーは、いくつかの OS で、論理パーティションが間違った順序でチェーン接続されたときに発生します。DOS、OS/2、Windows 95、および Windows NT では昇順でチェーン接続する必要がありますが、その必要がないオペレーティングシステムもあります。たとえば、Linux の FDISK ユーティリティは、バージョンによって論理パーティションを作成順にチェーン接続します。このエラーメッセージは非常に危険な状態を示しています。この状態で DOS の FDISK を実行すると、パーティションが失われることがあります。

この問題の修復方法については、6 ページの「パーティションテーブルエラーを修復する」を参照してください。

データのバックアップを作成してパーティションを作成し直す場合は、必ずそのパーティションを作成したプログラムを使って削除してください。

### **#121 ディスクの先頭セクタを読み込みません。**

ハードディスクドライブの先頭セクタ(シリンダ0、ヘッド0、セクタ1)には、MBRと基本パーティションテーブルが記録されています。この先頭セクタを読み込むときにエラーが発生するため、Drive Imageはそのハードディスクドライブを変更することができません。この問題の修復方法については、エラー #50 を参照してください。

### **#122 不良セクタが現在または新規パーティション領域で見つかりました**

新規または現在のパーティション領域に不良セクタがあるため、パーティションを安全に移動できません。このエラーメッセージが表示されると、Drive Image は移動処理を中止し、データの損失を回避します。パーティションの移動先を変更してください。ハードディスクドライブに不良セクタがある場合は、ハードディスクドライブの交換をお勧めします。

## **診断エラー (500 ~ 599)**

Drive Image がパーティションの状態を診断したときに発生するエラーです。この種のエラーを修復するための一般的な情報については、5 ページの「診断エラーを修復する」を参照してください。

### **#500 サブディレクトリが壊れています**

このエラーメッセージは、壊れたサブディレクトリがあるときに表示されます。ディレクトリとサブディレクトリにあるデータのバックアップを作成してください。その後、その壊れたサブディレクトリを削除してください。

### **#501 クロスリンクしたファイルが見つかりました**

SCANDISK や CHKDSK で同じエラーを検出し、修復してください。

### **#506 空き領域不足のためパーティションを縮小できません**

パーティションのサイズを縮小する場合は、(ハードディスクドライブの内容に応じて)ある程度の空き領域が必要です。パーティション内から不要なファイルや重複しているファイルを削除し、再度実行してください。

### **#508 指定されたパーティションの変更処理はできません**

パーティションの現設定値と同じ値が入力されたか、またはシリンダの領界内に丸められたために現在の設定値と同じ値になっています。変更幅を大きくしてください。

### **#509 現在または新しい領域に不良セクタが見つかりました**

指定されたサイズ変更処理を実行するため、Drive Image はファイルシステムの領域を拡張しようとしたのですが、新しい領域内で不良セクタが検出されました。パーティションを移動してからもう一度実行してください。これは、ディスクがデータを損失する前に出される警告メッセージです。

## #510 そのバージョンのファイルシステムに対応していません

Drive Image Pro のバージョンを更新しないと、新しいバージョンのファイルシステムで操作を実行することはできません。Drive Image Pro のアップデート版については、<http://www.netjapan.co.jp> に情報が掲載されています。

## HPFS 診断エラー (1000 ~ 1499)

Drive Image がパーティションの状態を診断した場合に発生するエラーです。この種のエラーを修復するための一般的な情報については、5 ページの「診断エラーを修復する」を参照してください。

### #1015 使用不可のマークのないシステムセクタが見つかりました

ハードディスクドライブ上にオープンファイルがあります。OS/2 をいったん終了し、フロッピーディスクから再起動してください。これで修復できない場合は、OS/2 の CHKDSK プログラムを実行してください。また、ファイル長がゼロのファイルが見つかったときにも、このエラーメッセージが表示されます。この問題は、OS/2 の CHKDSK プログラムでは修復できません。無効ファイルを削除してください。

### #1027 認識できないセクタがあります

この問題は次の方法で修復してください。

- HPFS386 パーティションで作業をしている場合は、Web サイトに掲載されているテクニカルサポート情報を参照してください。
- CHKDSK によって FOUND.000 や \*.CHK ファイルが作成されている場合、これらのファイルを削除してください。
- エラーメッセージに無効なファイル名が表示されている場合はそのファイルを削除してください。
- PC-Tools のディスクミラーリングオプションをオフに設定してください。
- いずれの方法でも問題を修復できない場合は、パーティションのバックアップを作成してからパーティションを削除し、パーティションを作成し直した後でデータを復元してください。

### #1045 Stac ボリュームが見つかりました。変換する前に削除してください！

このエラーは、STAC ボリュームのあるパーティションを HPFS パーティションに変換しようとしたときに発生します。HPFS パーティションにある STAC ボリュームは、Stacker からはアクセスできません。HPFS に変換する前に、この STAC ボリュームをパーティションから削除してください。

## NTFS 診断エラー (1500 ~ 1699)

1500 ~ 1699 番は、NTFS に関するエラーメッセージです。ここでは、「属性」という言葉をファイルのデータストリームの 1 つとして使用します。読み込み専用、非表示、システムなどといった属性の意味ではありません。診断エラーは、Drive Image がパーティションの状態を診断したときに発生するエラーです。この種のエラーを修復するための一般的な情報については、5 ページの「診断エラーを修復する」を参照してください。

### #1501 NTFS のバージョンが違います

Drive Image が対応していないバージョンの NTFS ファイル形式でパーティションが作成されています。

### #1503 NTFS のクラスタサイズが間違っています

NTFS で設定できるクラスタのサイズは、512 バイト、1,024 バイト、2,048 バイト、4,096 バイトのいずれかです。

### #1512 再起動レコードが一致していません

ジャーナルファイルに起動エントリが 2 種類登録されています。Windows NT が正しく終了しなかった場合にこのエラーが発生します。Windows NT を再起動し、終了コマンドを使ってもう一度終了してください。

### #1516 パーティションに異常があり起動できません

ジャーナルファイルの起動レコードに不正終了のフラグが付いています。このエラーは、Windows NT のオペレーティングシステムがパーティションに書き込みをしている間に、停電やシステムクラッシュが起きたことが原因で発生することがあります。Windows NT を再起動し、CHKDSK /F オプションで損傷を修復してください。

### #1527 更新のシーケンス番号が無効です

バッファ内にある更新のシーケンス番号が一致していません。このエラーは、Windows NT のオペレーティングシステムがパーティションに書き込みをしている間に、停電やシステムクラッシュが起きたことが原因で発生することがあります。Windows NT を再起動し、CHKDSK /F オプションで損傷を修復してください。

### #1529 ディレクトリエントリで一致しない情報が見つかりました

ファイルレコードに記録されたファイル属性と、ディレクトリエントリに記録された属性が異なります。このエラーがシステムファイル (ファイル 0 ~ 10) で発生した場合、Windows NT の CHKDSK プログラムでは修復されません。次回オペレーティングシステムを再起動したときに、Windows NT によりパーティションのルートディレクトリが再構築されます。



#### **#1538 連続した領域がないため移動できません**

連続して保存したいファイルの保存先に、十分な大きさのまとまった空き領域がありません。サイズ変更オプションでパーティションを縮小したときなどにこのエラーが発生します。

#### **#1539 ファイルサイズが一致していません**

ファイルレコードに記録されたシステムファイル（ファイル 0 ~ 10）のサイズが、ルートディレクトリのディレクトリエントリに記録されたサイズまたはデータストリームのサイズと一致していません。

#### **#1544 外部属性の中に外部属性リストが見つかりました**

外部のファイルレコードに外部属性リストが入っています。

#### **#1545 ファイル属性の順番が間違っています**

ファイルの属性は、数値形式の昇順で並んでいる必要があります。

#### **#1546 常駐または非常駐型以外の属性が見つかりました**

属性の常駐フラグに常駐と非常駐以外の値が使用されています。

#### **#1547 実行制限を超えています**

最上位と最下位のクラスタ数の差を超える大きなクラスタが実行時に使用されました。

#### **#1548 ファイルテーブルのエントリ数が 15 以下です**

ファイルテーブルには、最低でも 16 のエントリが必要です。

#### **#1549 ファイルテーブルのエントリ数が 40 億以上です**

ファイルテーブルには、40 億を超えるエントリは記録できません。

#### **#1644 システムファイルのシーケンス番号が間違っています**

システムファイルに間違ったシーケンス番号があります。システムファイルには、0 から 10 までのシーケンス番号しか使用できません。Windows NT の CHKDSK プログラムでは問題として認識されませんが、オペレーティングシステムを再起動したときにこのパーティションはアクセスされません。

#### **#1647 ルートディレクトリのインデックスに間違いがあります**

ルートディレクトリのインデックスでエラーが発生しています。Windows NT の CHKDSK プログラムでは修復されません。次回オペレーティングシステムを再起動したときに、Windows NT によりパーティションのルートディレクトリが再構築されます。

## その他の Drive Image エラーメッセージ

### #1701 ディスクを空にできませんでした

スクリプトのDELETE ALLコマンドで削除できなかったパーティションがあります。

### #1800 パーティションを開けませんでした

間違って開かれたイメージファイルのパーティションに対して、Drive Image が操作を実行しようとした。

### #1801 パーティションが見つかりませんでした。

イメージファイルに指定のパーティションがありませんでした。

### #1802 バンドル情報が壊れています

イメージファイルのヘッダ情報が無効です。

### #1803 バンドル情報がリードオンリーです

リードオンリーモードで開かれたイメージファイルのパーティションに対して、Drive Image が削除または書き込みの操作を実行しようとした。

### #1804 ビットマップイメージが見つかりません

ファイルにパーティションのビットマップ情報がありません。

### #1805 書き込み不良です

ファイルへのイメージの書き込み中にエラーが発生しました。通常は、Drive Image がパーティションにイメージファイルを書き込むときに領域が足りないと、このエラーが発生します。

### #1806 メモリ不足です

メモリ不足です。

### #1807 圧縮エラーです

イメージファイルのデータを圧縮中または解凍中にエラーが発生しました。

### #1808 バッファ不足です

バッファ不足のため、パーティションのビットマップ情報を読み込めません。

### #1809 空き領域不足です

空き領域が不足しているため、残りのパーティション操作を実行できません。

### #1810 オープンに失敗しました

イメージファイルを開けませんでした。

### #1811 読み込み不良です

イメージファイルから読み込めませんでした。

### #1900 ドライブ番号が無効です

スクリプトに記述されているドライブ番号が無効です。

## FAT 診断エラー (2000 ~ 2099)

Drive Image がパーティションの状態を診断したときに発生するエラーです。この種のエラーを修復するための一般的な情報については、5 ページの「診断エラーを修復する」を参照してください。

### #2001 FAT のコピーを認識できません

SCANDISK を実行してエラーを修復してください。この問題は、ウィルスが原因で発生することもあります。ウィルス検出プログラムを実行してウィルスを除去してください。

### #2005 ロストクラスタが見つかりました

SCANDISK または CHKDSK を実行してエラーを修復してください。

### #2012 パーティションに対して FAT ファイルシステムが大きすぎます

原因として次の状況が考えられます。

- パーティションのセクタ数が 65,536 より多い場合に、ブートセクタの bsHugeSects フィールド (Norton の DISKEDIT ユーティリティでは Big total number of sectors フィールド) に、パーティションテーブルの情報よりも大きなセクタ数が記録されている。
- パーティションのセクタ数が 65,536 より少ない場合に、ブートセクタの bsSects フィールド (Norton の DISKEDIT ユーティリティでは Total sectors on disk フィールド) に、パーティションテーブルの情報よりも大きいセクタ数が記録されている。

この状況で、存在しないパーティションや別のパーティションで使用されている領域を FAT ファイルシステムが使用すると、データが失われる可能性があります。この場合、パーティションの領域外にデータが置かれているため、単純にブートセクタにパッチをあてるだけでは修復できません。

このエラーを修復するには、データのバックアップを作成してからパーティションを削除し、新たにパーティションを作成し直した後で元のデータを復元します。Norton の Disk Doctor で修復できたという例も報告されています。

### **#2013 FAT ジオメトリのコンポーネントに間違いがあります**

原因として次の状況が考えられます。

- ハードディスクドライブのクラスタ数が FAT 制限を超えています。ブートセクタ内のセクタ数、FAT、ルートエントリ、予約済セクタ、クラスタあたりのセクタ数の設定値が間違っている可能性があります。
- FAT のセクタ数が小さすぎて、ハードディスクドライブのクラスタを格納しきれない可能性があります。

専門知識のあるエンジニアであれば、単純なパッチをあてるだけでハードディスクドライブを修復できる場合もあります。または、データのバックアップを作成してからパーティションを削除し、パーティションを作成し直した後でファイルを復元してください。

### **#2024 OS/2 の拡張属性ファイルが壊れています**

任意のプログラムにより、誤って OS/2 の拡張属性ファイルに書き込みや上書きが行われた可能性があります。この場合は、データのバックアップを作成してからパーティションを削除し、パーティションを作成し直した後でファイルを復元してください。